



へいわってどんなこと？

令和7年8月8日
奈良市立朱雀こども園

友達のこと、命のこと、平和のこと、戦争のこと、
絵本やふれあい遊びを通して、子ども達と一緒に考えました。

3歳

おさるさん
悲しそうな顔してる…

絵本やふれあい遊びを通して、「一人ひとりが大切な人であること」や
「友達のあたたかさ」を感じてほしいと思います。



迷子になったのかな？



おかあさんにぎゅって
してもらって笑ってる！

ぼくたちわたしたちも
「ぎゅっ」！
みんなで遊ぶと楽しいね。
優しい気持ち嬉しいね。



ネズミさんとゾウさん！
足(の大きさ)が違う！



ネズミさんしょんぼりしてる…
ゾウさんに(意地悪しちゃったけど)あやまろ
うと思ったのに帰っちゃったからかな？

絵本の登場人物の表情を見て、こんなときどんな
気持ちなんだろう…？と考え、子ども達からたくさ
んのつぶやきがでました。

大好きな友達。時にはケンカをしてしまうこともあ
るけれど、友達の気持ちに気付いたり、考えたりす
ることのできる優しい心を育むことができたらい
いと思っています。

4歳



★にじいろのさかなとおくじら★

にじうおたちが住んでいる所にくじらが来てにじうおたちを見てい
ます。食べられるのかもしれないと思いますが、あまりにもきれい
だから見ていたことを知る話です。

「ギザギザはくじらがみんなを食べようとして見ていると思った」
「にじうおがくじらとお話して仲良しになった」と言っていました。
話すことの大切さを感じているようでした。

★きみはほんとうにステキだね★

ティラノサウルスがエラスモサウルスと出会って思いやりの心を
知っていくお話。

どうしてティラノサウルスが優しくなっていたのか質問する
と、「(海におぼれた時に)助けてもらったから」「ペロペロしてもら
ったから」「友達が傷だらけでかわいそうだった」など話してくれま
した。友達から優しくしてもらった嬉しさや友達を大切にする気持ち
を感じているようでした。

お手玉を使って、甘酒
ホイホイの遊びをし
ました。みんなでタイ
ミングをあわせて楽し
みました。



いとまきの歌に合わせてふれあい遊びをしました。
色々な友達と手を繋いで遊べて楽しかった！

8月6日 80年前に日本でも戦争があったこと、広島に原爆が落ちてたくさんの人が死んでしまったことを子ども達と話しました。

「テレビでみた」「爆弾が落ちて、数えきれないくらいの人命が亡くなったってお母さんが教えてくれた」「爆弾、こわい」「いらん」「家とか燃えてなくなるの嫌や」「ロシアとウクライナは夜も戦ってるねんて」
 おうちの人やニュースで聞いたことを話す子や、「戦争いらん、だってお母さんと一緒にいいもん」と家族と一緒に居たい気持ちをつぶやく子もいました。

「戦争したくない」という気持ち、一人一人がそう思い続けることを大事にしたいと感じました。

◎ みんなで絵本をみる中で、子どもたちなりに何かを感じてくれたと思います



うん、ちょうちょは
せんそうしない



しない！

赤ちゃん抱っこ
してる



なんでパン
売ってるのかなあ

口で話した
らよかった



せんそうするのは人間の大人
だけだという気づきを与える
本です。

初めにごめんって
言えばよかった

日常の場面から世界中の子ども達の
様々な状況へと視野を広げていくお
話です。

最初は些細なケンカが戦争に。
ごめんなさいの言える人であり
たいです。

なにもケンカとか
しなかったらよか
ったのに

園長先生と一緒に

園長先生に絵本、4歳「まちゃんと5歳「ぼく
とガジュマル」を読んでいただきました。
振り返りでは、戦争のこと、平和のこと、命の
こと、友達のこと…各学年子どもたちなりに
感じたり考えたりする姿が見られました。



ガジュマルの木



3歳は「ともだちのうた」と
いう歌を歌っていただき
ました。



絵本に出てくる県を
教えてくださいました。

上映会

地域の16mm映写機を回す会の方に映画を上映していただきました。



『ひとりぼっちのおおかみと7匹の子やぎ』(3歳)

子やぎたちを食べてやろうと家に忍び込んだおおかみ。ところが子やぎた
ちはおおかみとは知らずに、一緒に踊ったりパンをご馳走したり…。優しく
されることで、おおかみも優しい心になっていきました。

『ランボーのうそ』(4・5歳)

ある日平和な森で羽に弓矢が刺さったカモを見つけます。
森で遊んでいたランボーは自分の矢が当たったものと思い込
み、森の仲間たちに人間がやったのを見たとうそをついてし
まいます。うそに気づいたヤギじいさんは、本当のことを言っ
てほしいと願います。

『一つの花』(5歳)

戦争で食料不足の中、幼いゆみ子は「一つだけちょうだい」が口癖でした。
父親が出征する日も「一つだけ。」とねだるゆみ子に、お父さんはコスモスの
花を摘んで渡します。「一つだけのお花、だいじにするんだよ。」
そのまま戻ってくることのなかった父親の娘の幸せを願う愛情が込めら
れたお話です。10年後の庭はたくさんのコスモスが咲いているのでした。